

1. 基礎的情報収集・調査研究の実施（新たに得られた知見の発信例）

- ・ 7つの研究会、検討会を本年度も精力的に実施、新事実などの成果を、イベント、論文集、メディアで広く発信
- ・ 外交実務にも資する研究会／検討会の運営に留意（本省や在外公館からも多数が参加し、質疑も活発）
- ・ 研究会相互乗り入れ、外部講師の招聘等オープンな体制
- ・ 研究会委員等（約80名）による国内外の資料調査・収集を本年度は計26回実施、都度成果を研究会やHP等で発信

新たに得られた知見例 1

19世紀大韓帝国では、竹島の領土認識が無かったことを示す韓国資料の発掘（竹島資料検討会での永島九州大学教授報告）韓国主張を覆す内容

2026年2月1日 山陰中央日報記事



永島広記教授

新たに得られた知見例 2

琉球王国が海上交易を通じ、尖閣諸島及びその海域について、同時代の明清に比べても、より深い認識を持っていたことを証明。琉球の海路絵図と現在の実際の島影を比較検証する実地調査を実施



新たに得られた知見例 3



日本政治外交史研究会による、幕末明治期と敗戦後の国家形成を比較する新視点での論文集を刊行。ハーバード大でシンポも開催

発掘資料のアーカイブ化と公開



- ・ 国交正常化以前の日中関係団体の貴重な活動資料を発掘アーカイブ化、研究者に提供
- ・ 収集した領土関係の貴重な古地図をアーカイブ化のうえ公開（内閣官房領土・主権展示館との連携事業）

2. 成果の発信による国際社会および国民の理解増進への寄与

- ・ 領土・領海に関する国際シンポジウムを、海外機関と連携し実施、日本の主張を海外で広く発信
- ・ 尖閣・竹島・北方領土に関する、地元記憶の継承も目的としたイベントを計7回実施（共同開催も含む）
- ・ 新たに発見した史料・画像・動画等を、領土・主権展示館や地方自治体と連携し各地で公開

海外でのイベント



- ・ クッシング記念国際法会議共催（5月 マニラ）
- ・ 海洋法国際会議共催（9月 デリー）
- ・ 「日英関係の将来：グローバルな協力へ」主催（11月ロンドン）
- ・ 「戦後80年、日欧関係を考える」共催（12月ローマ 第三大学）
- ・ 「歴史から見た日米関係」主催（2月ニューヨーク）
- ・ 「日米関係・外交と政治」共催（2月ボストン ハーバード大）
- ・ 「海洋安全保障」に係るシンポジウム共催（3月 マニラ）

領土分野での国内イベント



- ・ 竹島問題に関わる講演会を開催（松江市、隠岐の島町と共催）
- ・ 竹島に関する国会、島根県議会の合同議連との意見交換を実施
- ・ 石垣市主催「尖閣開拓の日」記念式典での講演支援と研究資料の配布
- ・ 島根県主催「竹島の日」記念式典での新発見戦前竹島動画の上映

地方および関係機関との協力による発信



- ・ 所蔵古地図を内閣官房領土・主権展示館や地方巡回展にて展示
- ・ 北大農学部関係者の協力で「北方四島の動物」シンポジウムを開催
- ・ 国立映画アーカイブの協力による貴重な戦前竹島動画の発掘と公開

3. 諸外国シンクタンク・有識者との協働・相互理解の促進

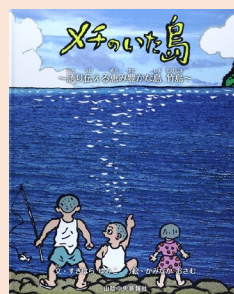
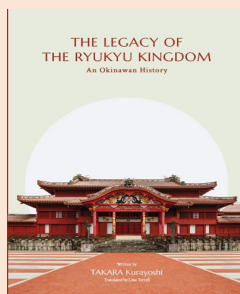
- ・国際法分野では米海軍大、世界海事大、フィリピン政府らと連携し、各種事業・シンポジウムを開催
- ・歴史分野ではハーバード大やローマ第3大学らと共催にて日米、日欧関係の近代史を評価するシンポジウムを開催
- ・日本の立場や主張の発信に供する書籍の海外出版
- ・常任海外シニアフェローとして、実績ある3人を起用、研究成果をPolicy Briefおよび英文ジャーナルJapan Reviewに定期的に寄稿、これに加え海外若手研究者とも連携

第4回海外短期フェロープログラム



マレーシア、インドネシア、ブルネイから3名が来日。各地の訪問を経て、領土・歴史問題への理解を深化。帰国後も関係を拡大しイベント等を共催

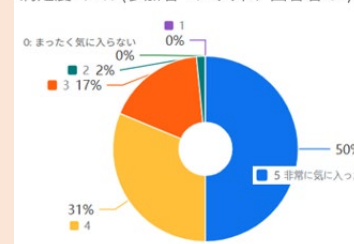
外国語版を含む成果発信書籍の刊行



- ・琉球帰属問題が議論となるなか、昨年度実施した岩波新書『琉球王国』の英語版に続き、西語、葡語版を出版準備中（3月末予定）
 - ・竹島問題の若年層への理解促進の為、絵本『メチのいた島』を英訳し海外の日本人・日系人コミュニティ中心に配布
- 論文集、報告書を来年度にかけ**計15冊刊行予定**

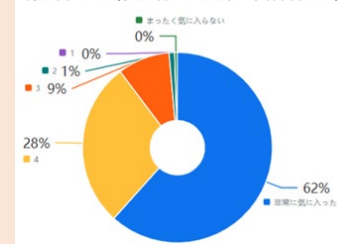
イベント実施後の反応調査の励行

満足度 81% (参加者 152 人中、回答者 64)



ランチタイム公開ウェビナー：1時間でわかる「日本をとりまく大陸棚問題と国際法」

満足度 90% (参加者 517 人中、回答者 214)



緊急公開ウェビナー「米・イスラエルのイラン攻撃 — 中東秩序の転換点と今後の展望」

- ・イベント実施後には必ずアンケートを実施のうえ、その結果を分析、次の機会に活かすことを励行中
- ・メディア取材があった場合は、記者に対して必ず、1) わかり易かったか、2) 次回にどう改善すればより参加者の理解度が増すかを聴取